



その救急車は本当に必要ですか？

みんなで守る救急医療

問合せ先 | 医療課 ☎35-3177
救急課 ☎32-0119

症状・緊急度

一次救急

比較的症状の軽い患者さん

- 開業医、国保診療所
- 高山市休日診療所

二次救急

入院や手術が必要な重症の患者さん

- 久美愛厚生病院
- 飛騨市民病院

三次救急

特に症状の重い患者さん

- 日赤救命救急センター

毎年9月9日は「救急の日」でその日を含む1週間は「救急医療週間」です。近年、全国的にも救急車の出動が増えており、高山市も例外ではありません。また、病院の救急外来へ比較的軽症の患者が休日や夜間

に気軽に受診するため、病院の勤務医からは限界との声も聞こえてきます。このままでは、市民のみなさんに本来の救急医療を提供することができなくなる恐れもあります。

救急医療を守る一人ひとりの心がけ

救急医療を守っていくためには、救急医療を適切に利用するという一人ひとりの心がけが重要です。

救急医療は緊急事態に備えるもので、限られた医療スタッフにより運営されています。検査などを含めた診療体制が整っている通常の診療時間内に受診しましょう。

身近な「かかりつけ医」・「かかりつけ薬局」を持ちましょう

日頃から気軽に相談できる「かかりつけ医」を持ち、早めの受診を心がけましょう。そして、健康診断を積極的に受けるなど、病気の予防にも努めましょう。

また、処方箋による薬の調剤はどこの薬局でも同じですが、できるだけ自分の服用歴が記録・保存されている「かかりつけ薬局」を持ちましょう。

薬の重複や飲み合わせのチェックはもちろん、普段の常備薬など気軽に相談できます。

不安解消にまずは「健康・医療相談ダイヤル24」を

健康・医療相談ダイヤル24とは、健康相談や医療相談、出産・育児の相談など、幅広くみなさんの健康や医療に関する相談に応じます。相談内容に応じて医師や看

護師などの専門スタッフが分かりやすくアドバイスします。個人のプライバシーも守られていますので安心して相談してください。

☎0120-54-7830

(通話料・相談料無料。24時間対応です)

医師の研修も支援

高山デンバー友好協会では、姉妹都市のデンバー市（米国）との新たな交流として、市内在勤の研修医（4人）をコロラド大学に派遣する事業を行っています。両市の医療関係者のネットワーク構築や外国の医療現場の体験を通じて新たな知識を習得することなどを目的として7月から11月まで行っていますが、7月から2週間派遣された高山赤十字病医院の百瀬崇医師から帰国報告がありました。



百瀬医師（右）とコロラド大学病院のマイク医師（左）

今年7月、高山市、高山デンバー友好協会、高山赤十字病医院の協力のもと、姉妹都市であるデンバー市のコロラド大学病院で、内分泌・糖尿病科、治療内視鏡科、行動医学・メンタルヘルス科で2週間研修しました。

インスリンポンプ、最先端の内視鏡治療やグループセラピーなど日本ではなかなか見ることができない部分についても学ぶことができ、大変貴重な経験をさせていただきました。また現地では、ホームステイをすることでデンバーでの生活を経験することが出来ました。今回経験したことを今後の研修生活に活かしていこうと思います。

今後も高山市とデンバー市の友好関係が深まっていくことを願っております。

問合せ先 | 海外戦略室 ☎35-3346

休日や夜間に受診できる医療機関が分からない場合は、高山地域救急医療情報センターへ ☎34-3799